

時	論
新	論
理	想

「脚のない鳥」からの便り

陳天璽 (ちんてんじ)

本館先端人類科学研究部

影響力のある世界華商大会

会議中、携帯電話に留守電が入っていた。耳に響く印象的な広東語アクセントの中国語。「今東京にいますので会いませんか。神戸で会った『脚のない鳥』です。覚えてますよね」とのメッセージ。二〇〇七年秋、世界華商大会のVIPミーティングで会った香港華商だとピンときた。

「華商」とは、中国系の企業家やビジネスマンのことである。目まぐるしい成長を遂げている中国の広大な市場を背景に、世界経済での存在感を増している。中国市場に参入を図る外国企業や経済人は、ことばや文化、社会的な繋がりなどに精通する華商の仲介を頼りにしている。わたしに電話をくれた香港華商も、アジアを中心に不動産事業で活躍している。

彼とは二〇〇七年九月に神戸で開かれた世界華商大会で出会った。同大会は、二年おきに世界各地でおこなわれ、各国の経済に一定の影響をもつ華商たち数千人が集まり、名刺交換、情報交換をする。

世界華商大会の開催は、その開催地の行政にも大きな意味をもつ。行政は自国に住む華商と連携し、国や地域のビジネスを宣伝するとともに、各国華商からの投資の誘致や経済協力関係を構築することが出来る。昨年の開催地である神戸も、阪神大震災を経験し、地域の復興と発展のため、十数年来大会の誘致に力を入れてきた。そして、その思いがようやく実り、

第九回大会を主催。世界三三カ国・地域から、約三〇〇〇人の参加者が神戸に集まった。フィリピンからは大手の銀行や航空を支配する経済界の重鎮、タイからは政界と強いコネクションをもつ有名華商などが参加した。

「関係」を武器に

冒頭の香港華商も中国、シンガポール、日本、アメリカを飛び回り、ホテルやショッピングモールの開発事業などの投資を



シンガポール中華總商會の代表團として第9回世界華商大会に参加した華商たち

コーディネーターする新進気鋭のビジネスマンだ。同じようなビジネスマンが集った世界華商大会では、話のスピードも早い。中国と羽田間を往來するプライベートジェットエットの計画を話す日本の華商の一人に、彼はすばやい反応で、「小型ジェット機ね。アメリカにいる友人に話をしてみよう。今度紹介するよ。いつ香港に来る？」と切り返す。わたしに笑顔で「こんなビジネスの仕方だから、僕には翼はあるけど、脚がないみたいに感じるんだ」と語った。実際、香港を拠点にしている彼が自分のオフィスのいる時間は限りなく少ない。「根無し草」のようで不安要素が多いと思われがちだが、彼の事業拡大のバイタリティーは不安をはるかに上回る。

華人社会では特に「関係(グワンシー)」が大切だと言われる。ビジネスにおいてもコネクションや人脈がものを言う社会だ。関係の象徴である名刺を頼りに、ビジネスのネットワークが展開されていく。世界華商大会は、関係を築く格好のチャンスであり、ここで集めた名刺が次のビジネスの扉を開ける招待状になるかもしれない。

「脚のない鳥」たちが「関係」を武器に世界中を飛び回る。明日の世界経済の潮流を描き出しているにちがいない。華商大会誘致を一過性のものとせず、同じ潮流を感じビジネスチャンスを探みとることが出来るか、日本の鳥たちにも問われている。